

抗がん剤服薬患者の栄養補給に関する調査 結果報告書

平成26年2月28日

株式会社QLife(キューライフ)

調査の背景

がん治療の現場において、近年、食欲不振や吐気・嘔吐などの悪液質をどう解消するかに注目が集まっている。これらの悪液質は抗がん剤治療の副作用として起こる場合も多く、食欲不振や吐気に悩まされながら、いかにして効率的に栄養補給を行えるかが重要となっている。国内においても、2000年頃よりNST(Nutritional Support Team)を設置する施設が増えてきているが、まだまだ十分には行きわたっていない状況だ。そこで、患者の大きな助けとなるのが、食事にプラスする形で摂取する栄養剤や栄養補助飲料である。そこで、QLifeでは、抗がん剤治療を受けた経験のあるがん患者に対し、栄養補給に対するアンケートを実施した。調査ではさらに、低栄養を伴う頻度が高く、術後栄養管理を行うことが重要とされる消化器系がん患者と全体との比較も行った。

主な結論

今回の調査で、抗がん剤治療を行ったがん患者の多くが、治療中の食欲不振や体重減少の面について、「我慢している」ということが分かった。抗がん剤治療を行った「食欲不振」や「吐気・嘔吐」といった、消化管の副作用を経験し、食事の面で困っていた。しかし、医療者に相談したことがある患者は約4人に1人、医療者から処方、または勧められた栄養剤や栄養補助飲料を使ったことがあるのは約6人に1人しかいなかった。その背景にあるのが、患者の栄養剤や栄養補助飲料に対する情報の少なさがある。多くの患者が「日々の食事で最低限の栄養補給が行えている」「栄養剤や栄養補助飲料は食事がままならない人のためである」と考えており、抗がん剤の効果のためなら食欲不振や体重減少も「我慢できる」と考えている。

この結果について、がん研有明病院 消化器外科胃担当部長・栄養管理部部長の比企直樹先生は、「抗がん剤の副作用で、絶食状態になったり、食事が食べやすいもの内容が偏ってしまうがん治療において、栄養剤や栄養補助飲料の役割は患者さんの栄養補給をサポートするだけではありません。例えば、一部の栄養補助飲料にはEPAが含まれているのですが、がんの炎症を抑える働きがあることが分かっています。“足りない部分を補う”守りの栄養補給ではなく、“がん治療の後押しをする”攻めの栄養補給が、再び健康的に毎日の生活を過ごせるための1つであることを、もっと知って欲しいですね」とコメントした。

結論の概要

- 1) 「食欲不振」も「吐気・嘔吐」も、抗がん剤治療患者の半数以上に出現
- 2) 「食事で困った」経験は、約半数
断続的に続く吐き気や白米の炊ける匂いに食欲不振に。解消法としてはゼリーやパン、バナナなどを食べている。
- 3) 「栄養補給の指導あった」は4人に1人で、うち「毎日実践した」のは約4割
医療者に対して相談した経験も患者の4人に1人と少ない。
- 4) 「医療者に栄養補給を相談したことある」のは4人に1人、「栄養剤や栄養補助飲料を使った」経験は、16%
- 5) 「抗がん剤のためなら食欲不振や体重減少も我慢」は4人に3人
食欲不振や体重減少は「一番に対策すべき」53.2%
- 6) 消化器系がん患者の抗がん剤治療中の栄養補給に対する意識はやや高い
医師や栄養士からの栄養指導「毎日実践」「半分くらい実践」89.3%(全体平均86.1%)、
利用補給についての相談「した」35.2%(全体平均25.3%)

【調査実施概要】

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象: 抗がん剤の服用経験のあるがん患者
- (2) 有効回収数: 500人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2014/ 1/12 ~2014/1/21

▼有効回答者の属性

- (1) 性別・年代:

年代	男性	女性	n
40代	54	71	125
50代	87	90	177
60代	101	46	147
70代以上	46	5	51
総計	288	212	500

年代	男性	女性	%
40代	18.8%	33.5%	25.0%
50代	30.2%	42.5%	35.4%
60代	35.1%	21.7%	29.4%
70代以上	16.0%	2.4%	10.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%

- (2) 居住地:

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
4.6%	0.8%	0.4%	1.4%	0.6%	0.2%	0.8%	1.8%	1.8%	0.6%
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
4.6%	4.8%	18.0%	11.0%	1.2%	0.8%	0.6%	0.4%	0.4%	0.8%
岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
2.6%	2.4%	4.2%	0.8%	0.4%	2.2%	11.2%	5.0%	1.2%	0.8%
鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
0.8%	0.4%	1.0%	1.8%	0.8%	0.0%	1.2%	1.0%	0.4%	3.2%
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県			
0.0%	0.6%	0.4%	0.4%	0.6%	0.2%	0.8%			

- (3) 現在のがん治療の段階:

	n	%
入院治療中	13	2.6%
通院治療中	157	31.4%
治療終了	330	66.0%
総数	500	100.0%

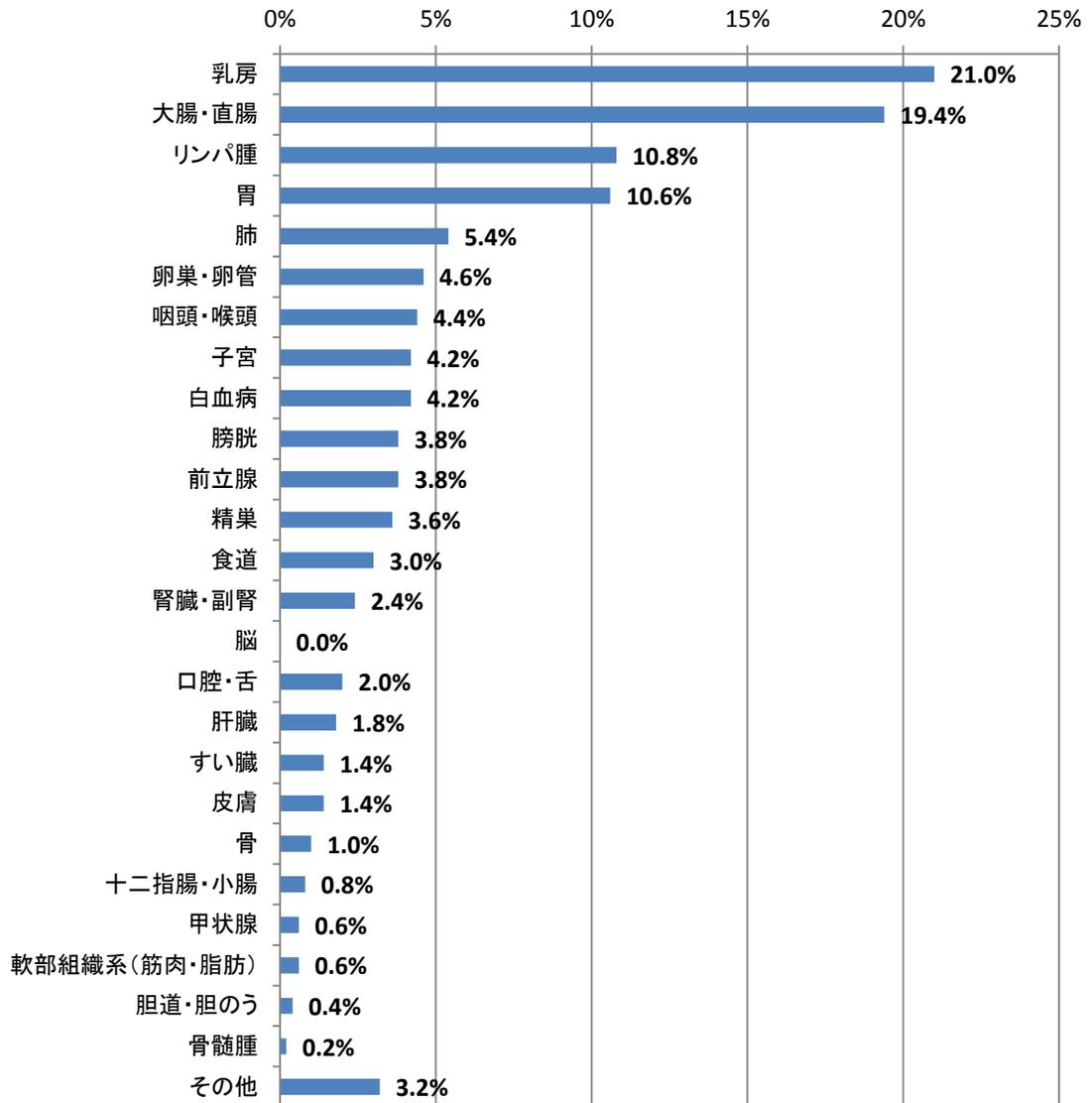
(4)がん種別

n=500

(MA)

	n	%
乳房	105	21.0%
大腸・直腸	97	19.4%
リンパ腫	54	10.8%
胃	53	10.6%
肺	27	5.4%
卵巣・卵管	23	4.6%
咽頭・喉頭	22	4.4%
子宮	21	4.2%
白血病	21	4.2%
膀胱	19	3.8%
前立腺	19	3.8%
精巣	18	3.6%
食道	15	3.0%
腎臓・副腎	12	2.4%
脳	10	0.0%
口腔・舌	10	2.0%
肝臓	9	1.8%
すい臓	7	1.4%
皮膚	7	1.4%
骨	5	1.0%
十二指腸・小腸	4	0.8%
甲状腺	3	0.6%
軟部組織系(筋肉・脂肪)	3	0.6%
胆道・胆のう	2	0.4%
骨髄腫	1	0.2%
その他	16	3.2%
総数	500	114.6%

がん種別(複数回答)



n=500

【Q1】【複数回答】抗がん剤治療における副作用で、どんな症状がありましたか。

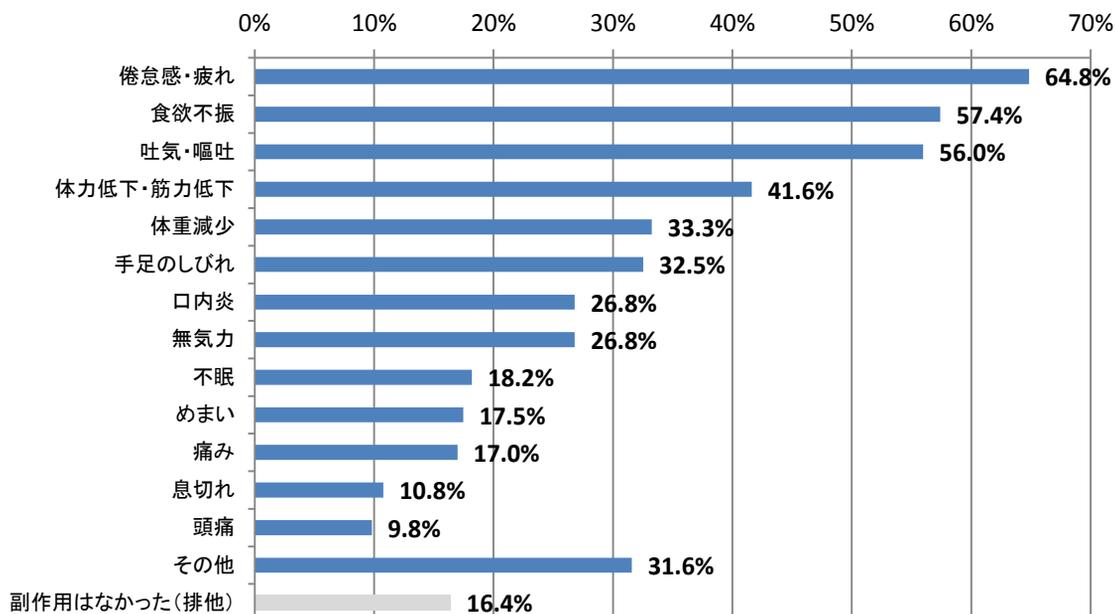
最も多かったのが「倦怠感・疲れ」で64.8%の患者が感じていた。次いで「食欲不振」(57.0%)、「吐気・嘔吐」(56.0%)となり、2人に1人以上の患者がこの3つの副作用があったと回答した。

n=500

(MA)

	n	%
倦怠感・疲れ	271	64.8%
食欲不振	240	57.4%
吐気・嘔吐	234	56.0%
体力低下・筋力低下	174	41.6%
体重減少	139	33.3%
手足のしびれ	136	32.5%
口内炎	112	26.8%
無気力	112	26.8%
不眠	76	18.2%
めまい	73	17.5%
痛み	71	17.0%
息切れ	45	10.8%
頭痛	41	9.8%
その他	132	31.6%
小計	418	444.0%
副作用はなかった(排他)	82	16.4%
総数	500	

抗がん剤治療における副作用の症状(複数回答)



n=500

【Q1】【複数回答】 抗がん剤治療における副作用で、どんな症状がありましたか。(つづき)

「大腸・直腸」「すい臓」「十二指腸・小腸」「胃」「食道」「咽頭・喉頭」のいわゆる消化器系がんに絞った結果でも、「食欲不振」「吐気・嘔吐」が上位となった。

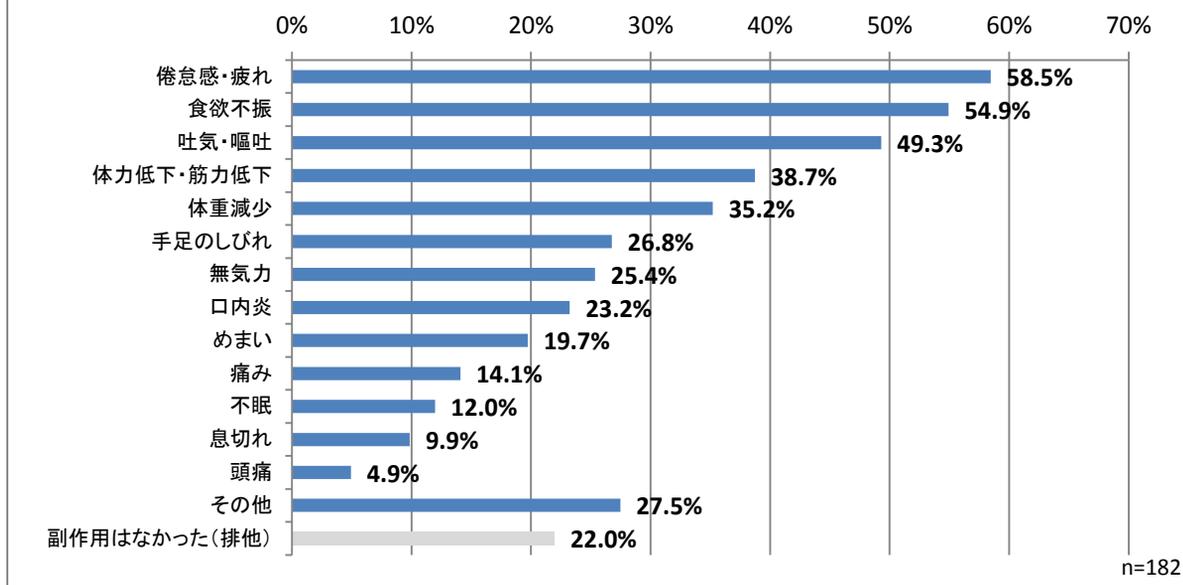
【消化器系がんのみ】

n=182

(MA)

	n	%
倦怠感・疲れ	83	58.5%
食欲不振	78	54.9%
吐気・嘔吐	70	49.3%
体力低下・筋力低下	55	38.7%
体重減少	50	35.2%
手足のしびれ	38	26.8%
無気力	36	25.4%
口内炎	33	23.2%
めまい	28	19.7%
痛み	20	14.1%
不眠	17	12.0%
息切れ	14	9.9%
頭痛	7	4.9%
その他	39	27.5%
小計	142	400.0%
副作用はなかった(排他)	40	22.0%
総数	182	

抗がん剤治療における副作用の症状：消化器系がんのみ(複数回答)



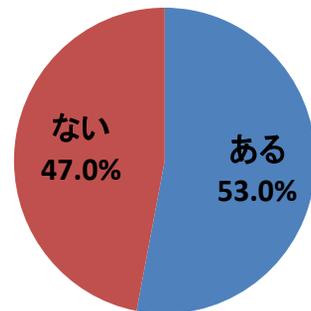
【Q2】 抗がん剤治療において、食事の面で困ったことはありますか。

約半数のがん患者が食事の面で困ったことが「ある」と回答した。

n=500 (SA)

	n	%
ある	265	53.0%
ない	235	47.0%
総数	500	100.0%

抗がん剤治療において食事の面で困ったことがあるか



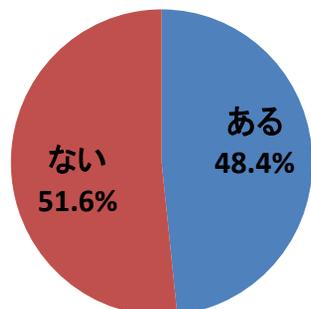
n=500

【消化器系がんのみ】

n=182 (SA)

	n	%
ある	88	48.4%
ない	94	51.6%
総数	182	100.0%

**抗がん剤治療において食事の面で困ったことがあるか
: 消化器系がん**



n=182

【Q3】 がん治療中、食事の面で困ったことや工夫したことを詳細に教えてください。

回答者からのコメントを分析したところ、「食欲」「吐き気」「味覚」「ご飯」という単語が頻出していた。また、その対処法としては、「ゼリー」「パン」「バナナ」などのほかに、スポーツ飲料や一般向け栄養補助食料の具体的な商品名も挙がっていた。以下にそれぞれの頻出語が含まれる特徴的なコメントを紹介する。

【食欲】

- ・食欲不振に加えて、量も食べられなくなった。少しでも空腹を感じたときに少しずつ食べた。食べる気がおきないときは、エンシュアリキッドを処方してもらった。(千葉県・50代女性 咽頭・喉頭)
- ・覚障害で塩味以外全くわからず水を飲んでも塩水に感じるので食欲がでなかった。果物は好きでなかったが香りはわかるのでよく食べた。においは敏感になった。味がわからなくてもにおいは敏感で痛んだものなどわかったのがよかったが・・・。(東京都・50代女性 白血病)
- ・味覚が変わったし、何より食べると吐き気がするので食欲が出ず、無理して食べるとまた吐くという繰り返し。食べもののニオイで気持ちが悪くなり、ご飯の炊けるおいしいニオイを嗅いでも吐き気がするという悲惨な状態だった。工夫というか吐き気止めの薬を処方してもらった。(東京都・50代女性 乳房)

【吐き気】

- ・食事の配膳される音を聞いただけで吐き気が起こるようになった。(富山県・50代女性 子宮、甲状腺)
- ・全く食欲が出ず吐き気等気分が非常に悪かった。自分は食べれないが家族の食事を考えたり、できないと自分を責めたりで辛かった。(京都府・40代女性 乳房)
- ・アブラ分、特にてんぷら油が吐き気を誘発しとても食べられなかった。(神奈川県・60代男性 リンパ腫)

【味覚】

- ・味覚障害。酷いときは「甘い」「辛い」「苦い」さえ感じなくなっていました。(大阪府・60代男性 咽頭・喉頭、食道、胃、大腸・直腸)
- ・とにかく食べられなかった。初期は、白米からおかゆに変更。それから全くたべられなくなり、栄養点滴。ちょっとマシになってからは、こんにやくゼリーばかり食べていた。(香川県・40代女性 リンパ腫)
- ・投与後5日ごろから3日間ほど味覚障害が起きたので、何を食べても本来の味が感じられず、口に入れると砂利を食べているようで苦痛だった。仕方なくその3日間は口当たりのよいアイスやプリンなどを食べていた。(大阪府・40代女性 乳房)

【ご飯・白米】

- ・ご飯の炊けるにおいにムツと来た。(宮城県・40代女性 卵巣・卵管)
- ・病院の食堂にこもる臭い、暖かいご飯やおかずから出る臭いを嗅ぐと食欲がなくなり何も食べられなくなった。(神奈川県・50代男性 肺)

【ゼリー】

- ・味覚障害のため白いご飯、コーヒーなどの刺激物、加工品も含む肉魚などの動物性食品が全く食べられず、一日2回食事がわりにゼリー状食品と野菜ジュースと和菓子で栄養補給した。(兵庫県・50代女性 子宮)
- ・吐き気がするときは、固形物が食べられなく、ゼリーやアイスクリームを食べていた。(福島県・30代女性 乳房)
- ・病院食が運ばれてくるだけでその匂いが嫌で、ロビーに逃げた。コンソメスープやゼリー、素麺を食べた。家ではポトフのようなものを途中まで作って、疲れて横になり、最後の味つけは帰宅した娘に頼んだりもした。煮魚や焼き魚のにおいもだめだった。(東京都・60代女性 肺)

【パン】

- ・パン食又は麺類にしてもらった。(埼玉県・60代男性 肝臓、大腸・直腸)
- ・体力を維持するためにも食べようとし ご飯・おかゆ・蕎麦・パンと試したのだが、食事そのものの作業さえも辛くなって早く横になりました。(青森県・50代男性 白血病)
- ・ずっと入院生活だったので、朝パンを食べて、昼は何も食べず、夜、りんご1個だけ食べていた。(愛知県・50代女性 その他)

【バナナ】

- ・今回大好物の食事が、すべて食べられなくなりました。多分つわりは、この様な状態を言うのだらうと思いました。バナナだけは普通に食べられましたので助かりました。(宮城県・60代男性 肺)
- ・かろうじて食べられるもの(おかゆ、白パン、白身魚、バナナ)を少量を何回にも分けて少しずつ食べるようにした。(東京都・50代女性 乳房)
- ・投薬日から1週間は強い副作用の為に全く食欲がなく、1回の食事はバナナ二分之一、トマトジュース1缶程度。(神奈川県・40代女性 乳房)

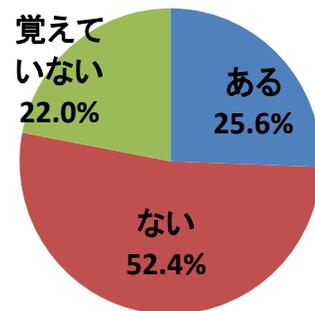
【Q4】 医師や栄養士から、抗がん剤治療中の栄養補給について、具体的な指導はありましたか。

抗がん剤治療中の栄養補給について、医師や栄養士から「具体的な指導があった」と回答したのは4人に1人強にとどまった。全体、消化器がんともに約2人に1人が「具体的な指導はなかった」と回答した。

n=500 (SA)

	n	%
ある	128	25.6%
ない	262	52.4%
覚えていない	110	22.0%
総数	500	100.0%

医師や栄養士から具体的な指導があったか



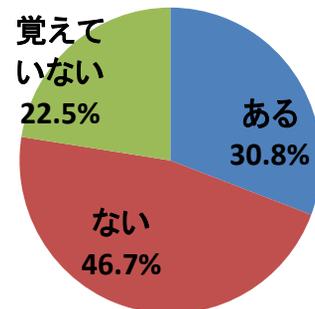
n=500

【消化器系がんのみ】

n=182 (SA)

	n	%
ある	56	30.8%
ない	85	46.7%
覚えていない	41	22.5%
総数	182	100.0%

医師や栄養士から具体的な指導があったか：消化器系がん



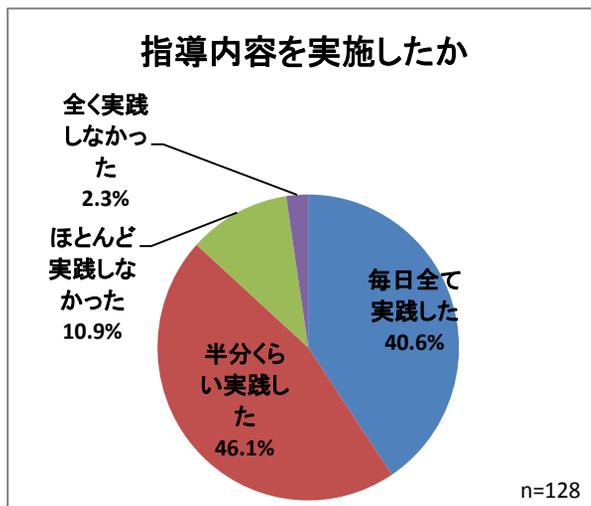
n=182

【Q5】「医師や栄養士から、抗がん剤治療中の栄養補給について具体的指導があった」とのことですが、その指導内容をあなたは実践しましたか。(Q5で「ある」と回答した人のみ回答)

医師や栄養士からの栄養補給についての具体的な指導を、約9割の患者が「毎日」「半分くらい」実践したと回答。しかし、毎日全て実践したのは、そのうちの半分以下だった。

n=128 (SA)

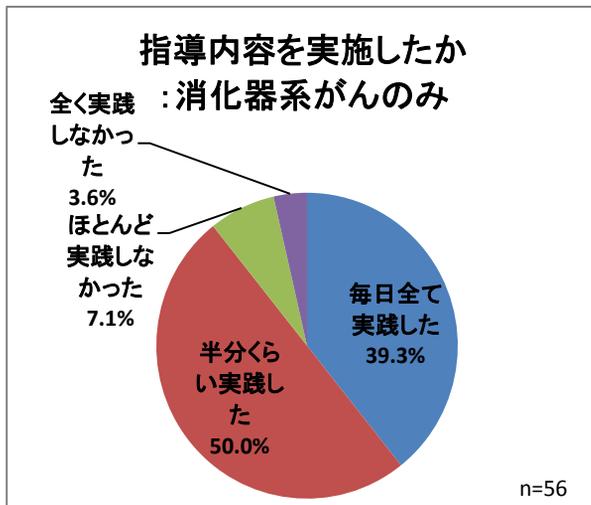
	n	%
毎日全て実践した	52	40.6%
半分くらい実践した	59	46.1%
ほとんど実践しなかった	14	10.9%
全く実践しなかった	3	2.3%
総数	128	100.0%



【消化器系がんのみ】

n=56 (SA)

	n	%
毎日全て実践した	22	39.3%
半分くらい実践した	28	50.0%
ほとんど実践しなかった	4	7.1%
全く実践しなかった	2	3.6%
総数	56	100.0%



【Q6】 Q5でなぜそう回答したかを詳細に教えてください。

以下に前門の回答別にその理由の一部を記載する。

【毎日全て実践した】

- ・食べやすいものを食べるように言われたため、無理なく実践することができたから(埼玉県・40代女性 リンパ腫)
- ・ドクターを信頼し、その治療法を丁寧に説明して頂いたため、何も疑問に思わずに、言われた事は、全て実践した。(兵庫県・60代男性 白血病)
- ・こんな苦しみを二度と味わいたくないから。(茨城県・60代女性 乳房)
- ・とにかくはじめての事で退院できたことでうれしかったし再発はさけたかったのですべて実行した。(東京都・50代女性 白血病)
- ・ものすごく痩せて体力がどんどんおちるので、実践せずにはおれなかった。(埼玉県・70代女性 食道、口腔・舌、子宮、乳房)
- ・食欲に変動があったことから、管理栄養士に相談しながら摂取できるものをお願いした。幸い、進行度合いが軽いので主治医に自分の希望する治療方法や、投薬の量のさじ加減を調整してもらっているため、副作用が無いといえるくらいなので、主治医からも特別なことはせずに普通どおりの生活をするように言われている。(北海道・50代男性 白血病)
- ・医師の指示だから、それなりの理由がある筈なので優先すべきだと。(神奈川県・60代男性 リンパ腫)
- ・食べたいもの、食べられるものだけだと、食事に偏りが出してしまうため、バランスを考えた。(群馬県・50代男性 大腸・直腸)

【半分くらい実践した】

- ・殆ど食べる事が出来なくて点滴で補っていたので、口にできる物に関してはできるだけ栄養価の高いものを食べた(愛知県・50代女性 卵巣・卵管)
- ・自分に当てはまらない事例も多かったから。(東京都・50代女性 乳房)
- ・栄養士の方とにかく食べられそうなものがあれば何でも作ってくれるというのでお願いしたが、食べたい物だけでは栄養価が足りず薬を混ぜられたことにより、薬臭くて結局食べられなくて途中でやめた。(高知県・50代女性 食道、口腔・舌)
- ・何でもいから食べてくださいと言われてたが、吐き気がしてあまり食べる事が、できなかった(東京都・50代男性 精巣)
- ・食欲が無く一方食べなければ痩せる事は分かっている事から食事が苦痛だった(東京都・70代男性 咽頭・喉頭、膀胱)
- ・言われていることは理解できたが、食欲がなくては無意味だった。(神奈川県・50代男性 咽頭・喉頭、食道)
- ・思うように食べられず、自宅には日中自分一人で近所にも家事を手伝ってくれる身寄りがなかったので、離乳食のように軟菜食にする手間をかける体力と気力がありませんでした。(東京都・50代女性 乳房)
- ・回数を増すように指導を受けたが、現実には食欲不振のため回数を増すことはできなかった。(岡山県・70代男性 胃、肝臓、腎臓・副腎)

【ほとんど実践しなかった】

- ・黙っていても吐き気で悩まされたので、栄養補給などできなかった。(北海道・60代男性 咽頭・喉頭)
- ・偏食気味なので嫌いなものは絶対食べたくないと思っていたから(東京都・50代女性 その他)
- ・「食べないと体力がつかないから食べたいものがあればそれを持ってきてもらって少しでも食べるように。」と言われてたが、退院するまで食べたいものが無かった。(東京都・60代女性 リンパ腫)

【全く実践しなかった】

- ・通常の食事ができた。(兵庫県・60代男性 肺)
- ・全く食欲がなかったので実践できなかった(千葉県・60代男性 胃)

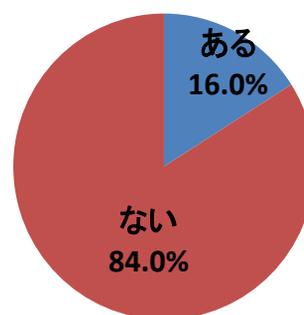
【Q7】栄養補給をするために、【食事の他に】「病院や医師から処方または勧められた、栄養剤や栄養補助飲料」を摂った経験はありますか。

栄養剤や栄養補助飲料の摂取経験について「ある」と回答したのは、16.0%だった。消化器系がんに絞るとやや増え、21.4%が摂取経験ありと回答した。

n=500 (SA)

	n	%
ある	80	16.0%
ない	420	84.0%
総数	500	100.0%

処方、または勧められた栄養剤
や栄養補助飲料を使ったことが
あるか



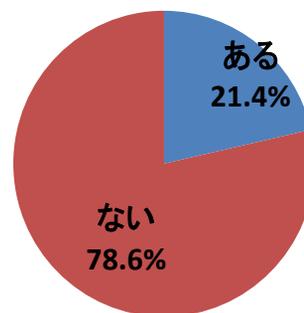
n=500

【消化器系がんのみ】

n=182 (SA)

	n	%
ある	39	21.4%
ない	143	78.6%
総数	182	100.0%

処方、または勧められた栄養剤
や栄養補助飲料を使ったことが
あるか：消化器系がんのみ



n=182

【Q8】 主治医や看護師・薬剤師など医療者に対して、栄養補給の仕方について、あなたから具体的に相談をしたことはありますか。(Q2で「ある」と回答した人のみ回答)

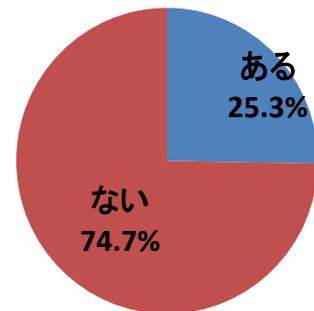
約4人に1人の患者が栄養補給について相談したことがあると回答。消化器系がんでは、さらに増加し、35.2%が相談経験ありと回答した。

n=265

(SA)

	n	%
ある	67	25.3%
ない	198	74.7%
総数	265	100.0%

医療者に栄養補給の仕方について相談したことがあるか



n=265

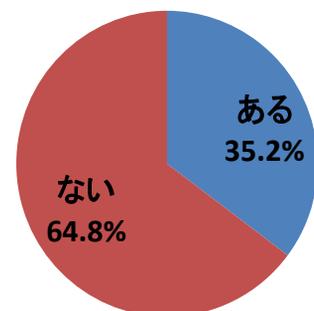
【消化器系がんのみ】

n=88

(SA)

	n	%
ある	31	35.2%
ない	57	64.8%
総数	88	100.0%

医療者に栄養補給の仕方について相談したことがあるか
: 消化器系がんのみ



n=88

【Q9】医療者に「栄養補給についての相談」をしなかった理由はなぜですか。

多かった回答に点滴での栄養補給や何を口にしても吐き気が続くことで、逆に「相談の必要性を感じなかった」というものがあった。また、「これくらいなら我慢できる」「抗がん剤投与期間が終われば元に戻るから」といった意見も多かった。以下に代表的なコメントを紹介する。

- ・不自由を感じなかった為(静岡県・40代男性 大腸・直腸)
- ・副作用があるのは仕方がないと思ったからです。(神奈川県・40代女性 乳房)
- ・「食べられるものを食べてくださいね」としか言われなかったし実際そうするしかないだろうと思った。抗がん剤治療者用の食事もあったが、口に合わなさそうだったので選択しなかった。(兵庫県・50代女性 子宮)
- ・主治医が最初に、食欲がなくなるがその場合は何を食べても良いので自分の食べたい物を食べたいだけ食べて良いとは言っていたが、食欲がなくなってきたら特に食べたい物はなかった。体重は大きく減ったが、いずれは元に戻ると考えていたので、何か特別に栄養をとると言う考えは思わなかった。(神奈川県・50代男性 肺)
- ・何をしても無駄そうだったから。ともかく吐き気止めを処方してもらった。(東京都・50代女性 乳房)
- ・標準体重を超えているので無理に食べなくてもいいと思ったのと、薬が抜けて時間がたてば食べられるようになったので。(東京都・40代女性 卵巣・卵管)
- ・ネットで検索するとだいたい解決したので、あえて病院で相談しなかった。SNSだと、同じ病気の先輩の経験談がよく載っているので、参考にできた。(福島県・30代女性 乳房)
- ・入院しての抗がん剤治療で、最悪は点滴で栄養を取るという選択があったので。(東京都・30代女性 脳、リンパ腫)
- ・そんな質問を医療者にしても 適切な回答は得られないと思いこんでいた。(富山県・60代女性 乳房)
- ・ピークが過ぎれば又食べられるようになると、抗がん剤の経験者に聞いていたから。(東京都・60代女性 肺)
- ・治療中の一過性のもと思っていたから。栄養を考える余裕はなく口に入りさえすれば良かった。(京都府・40代女性 乳房)
- ・抗がん剤の期間が3カ月だったので、あまり影響はないと思った。処方された吐き気止めがよく効いた。(千葉県・50代女性 乳房)
- ・外科だったので、内科的なことに関心がないように見えていたから。(埼玉県・40代男性 骨)
- ・一時的なものだったし、副作用だと思い特に相談しなかった(神奈川県・50代女性 リンパ腫)
- ・入院中であり全て主治医にまかせた。全く、飲み食いできなかつたので、点滴しかなかったと思う(千葉県・60代男性 胃)

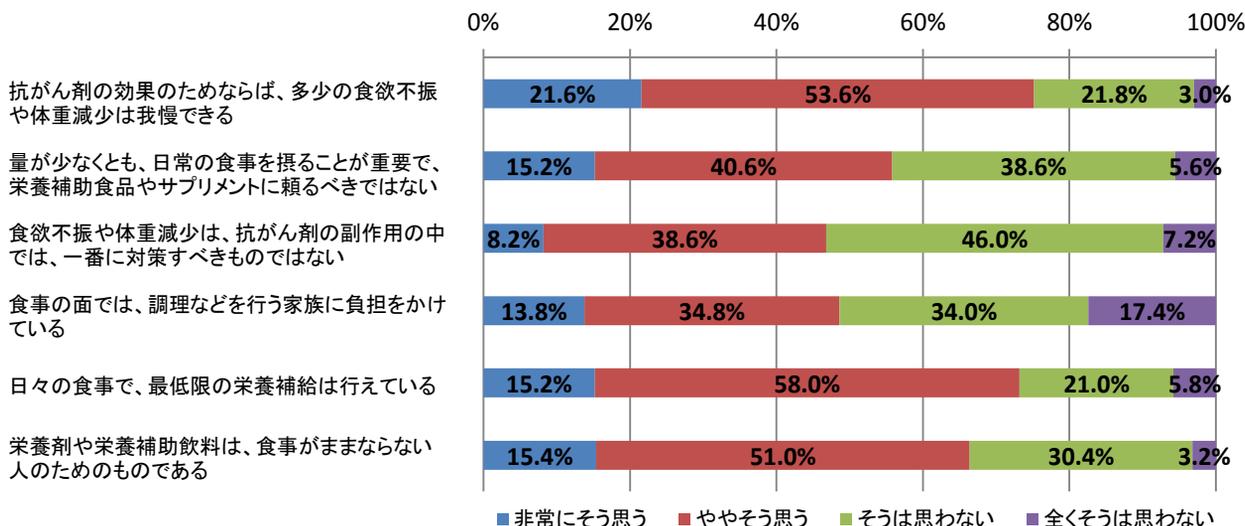
【Q10】 抗がん剤治療における栄養補給について、あなたの考えに近いものを教えてください。

「食欲不振や体重減少は一番に対策すべきものではない」「食事の面では家族に負担をかけている」については、意見が二分した。一方、「抗がん剤の効果のためならば多少の食欲不振や体重減少は我慢できる」「日々の食事で最低限の栄養補給は行えている」は約75%が「そう思う」、「栄養補助食品やサプリメントに頼るべきではない」「栄養剤や栄養補助飲料は食事がままならない人のためのものである」については約65%が「そう思う」と解答した。消化器系がん患者についても、ほぼ同様の回答だった。

n=500 (SA)

	非常に そう思う	やや そう 思う	そうは 思わ ない	全く そう は思 わ ない	n	非常に そう思う	やや そう 思う	そうは 思わ ない	全く そう は思 わ ない	%
抗がん剤の効果のためならば、多少の食欲不振や体重減少は我慢できる	108	268	109	15	500	21.6%	53.6%	21.8%	3.0%	100.0%
量が少なくとも、日常の食事を摂ることが重要で、栄養補助食品やサプリメントに頼るべきではない	76	203	193	28	500	15.2%	40.6%	38.6%	5.6%	100.0%
食欲不振や体重減少は、抗がん剤の副作用の中では、一番に対策すべきものではない	41	193	230	36	500	8.2%	38.6%	46.0%	7.2%	100.0%
食事の面では、調理などを行う家族に負担をかけている	69	174	170	87	500	13.8%	34.8%	34.0%	17.4%	100.0%
日々の食事で、最低限の栄養補給は行えている	76	290	105	29	500	15.2%	58.0%	21.0%	5.8%	100.0%
栄養剤や栄養補助飲料は、食事がままならない人のためのものである	77	255	152	16	500	15.4%	51.0%	30.4%	3.2%	100.0%

抗がん剤治療における栄養補給について



n=500

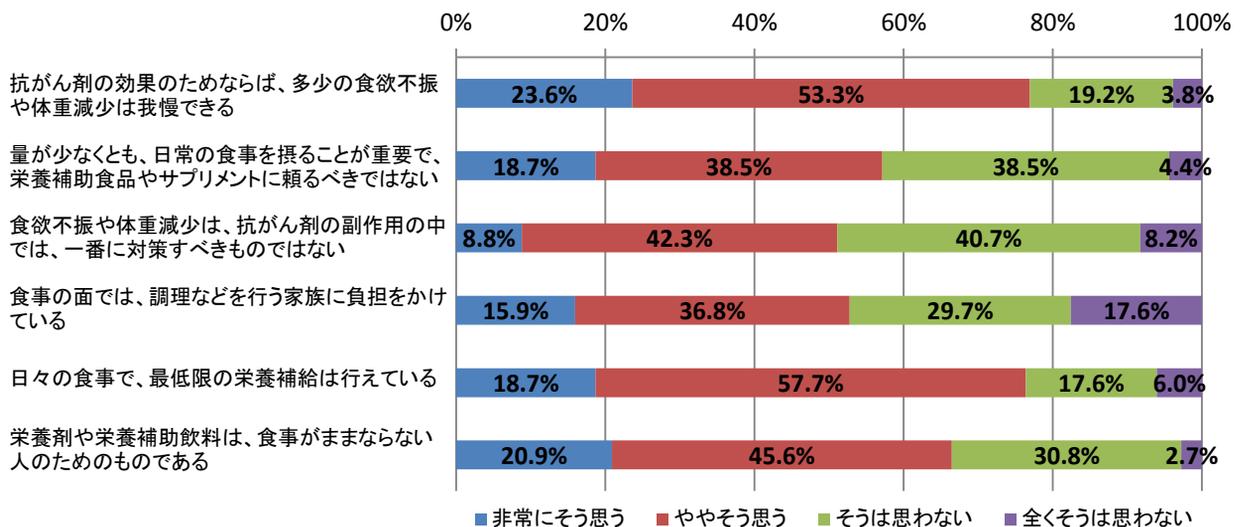
【Q10】 抗がん剤治療における栄養補給について、あなたの考えに近いものを教えてください。(つづき)

【消化器系がんのみ】

n=182 (SA)

	非常に そう 思う	やや そう 思う	そうは 思 わない	全く そ う は 思 わ ない	n	非常 に そ う 思 う	やや そ う 思 う	そう は 思 わ ない	全く そ う は 思 わ ない	%
抗がん剤の効果のためならば、多少の食欲不振や体重減少は我慢できる	43	97	35	7	182	23.6%	53.3%	19.2%	3.8%	100.0%
量が少なくとも、日常の食事を摂ることが重要で、栄養補助食品やサプリメントに頼るべきではない	34	70	70	8	182	18.7%	38.5%	38.5%	4.4%	100.0%
食欲不振や体重減少は、抗がん剤の副作用の中では、一番に対策すべきものではない	16	77	74	15	182	8.8%	42.3%	40.7%	8.2%	100.0%
食事の面では、調理などを行う家族に負担をかけている	29	67	54	32	182	15.9%	36.8%	29.7%	17.6%	100.0%
日々の食事で、最低限の栄養補給は行えている	34	105	32	11	182	18.7%	57.7%	17.6%	6.0%	100.0%
栄養剤や栄養補助飲料は、食事がままならない人のためのものである	38	83	56	5	182	20.9%	45.6%	30.8%	2.7%	100.0%

抗がん剤治療における栄養補給について:消化器系がんのみ



n=182

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴
TEL : 03-3500-3235 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)
所在地 : 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル赤坂7F
代表者 : 代表取締役 山内善行
設立日 : 2006年(平成18年)11月17日
事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業
企業理念 : 医療と生活者の距離を縮める
URL : <http://www.qlife.co.jp/>
